# 安心・つながりプロジェクトチーム取りまとめ（案）
～お互い様のつながりづくり～

第7回プロジェクトチーム　資料1
令和７年７月３１日

**ポイント**
① 居場所づくりは、日常生活動線上で、「楽しいこと」「やりたいこと」が重要。「役割」や「出番」をつくり「頼る」。
② 民間企業は、事業活動を通じたつながりづくり、社員間・社員と地域とのつながりづくりの重要な担い手。
③ 退職後の孤独・孤立は皆が直面し得る課題。社会や地域とのつながりづくりなど、現役世代からの「備え」が重要。

○ 今後、単身世帯が増加し、孤独・孤立のリスクを抱える単身の方が増加する懸念（2050年に全世帯の44.3%と推計）。
○ 年齢を重ねて身体機能や認知機能の衰えなど高齢期の課題を抱えつつも、社会や人々と適切につながりながら、単身の方が安心して生き生きと暮らしていける社会づくりが必要。
⇒ ①身寄りがない状況にある高齢者等への支援に係る施策
⇒ ②**孤独・孤立の予防のための中長期的視点に立った対策**

単身で身寄りがなくても、日常生活から死後の手続まで困ることなく、適切な支援を受けられるような仕組みを社会の基盤として実装。

**【ＰＴの重点】**
✓ 現在、単身で身寄りのない高齢者の孤独・孤立の予防と、将来を見据え、現役世代を含め、今後増加していく単身者が高齢期に至っても社会とのつながりを持ち、孤独・孤立状態に至らず、安心して高齢期を過ごすことができるような、中長期視点に立った対策を併せて重点的に議論。

- 関係省庁や地方自治体において、意思決定支援・身元保証や死後事務等についての様々な施策が講じられ、有識者による議論も深められている。
⇒本ＰＴにおいては、関係省庁の取組との役割分担の観点も踏まえ、議論等の状況を把握。

## ❶居場所・つながりづくりの在り方

### 多様な居場所づくりの促進
- 「ＳＮＳ以上しがらみ未満」の緩やかなつながりが求められる。
- 居場所の特性（交流型・支援型）を意識し、多数（どこも）・多様（どこか）な居場所が必要。
- 「課題」を入口にするのではなく、好きなこと、やりたいことを「タグ付け」。
- 担い手自身が「楽しい」と思える居場所づくり。
- 日常生活動線上で自然に集える工夫。

➢ **モデル事業、交付金の重点的な活用。**
➢ **地方における官民連携基盤（プラットフォーム）の設置加速化。**

### 担い手の確保に向けた取組の在り方
- 地域活動の担い手の高齢化やシニア層の担い手不足に直面。
- コーディネーター／リーダーの養成と、現場の活動の担い手を両立する必要。
- できる範囲で、無理なく地域活動に参画する潜在的な担い手の掘り起こし。
- 居場所で役割を果たし、支え合う。

➢ **つながりサポーターの普及促進。**
➢ **地域の活動と人材とのマッチング支援。**
➢ **リーダー養成研修、民間企業の取組促進。**

## ❷支援につなげる際の課題

### 受援力を高めるための個々人の意識醸成の在り方
### 声を上げづらい方等に支援を届けるための取組の在り方
- 「助けを求めたり、相談することは恥ずかしいことではなく良いこと」という理解の浸透。
- 働く女性が増え、退職を契機に社会とのつながりを失いかねないという課題に皆が直面し得る。
- 特に若者・現役世代へのアプローチが重要。
- 「支援の対象」と扱わず、「役割」や「出番」をつくり「頼る」こと。自己肯定感・有用感。

➢ **広報・啓発の強化によるスティグマ解消。**
➢ **民間企業への働きかけによる現役世代への啓発。**
➢ **「役割」の共通認識の形成。**

## ❸行政が果たすべき役割及びＮＰＯ等や民間企業に期待される役割について

**● 国・地方自治体**
✓ 官・民・ＮＰＯ等の水平的な連携基盤づくり
✓ 後方支援、広報・啓発

**● 市民社会組織やＮＰＯなど**
✓ 多様な居場所・つながりづくりの中心的な担い手
✓ 顔の見える関係の構築

**● 民間企業**
✓ 社員間・社員と地域とのつながりづくり
✓ 退職後に備えたつながりづくり
✓ 事業活動を通じたつながりづくり